

一般県道小倉線消音工取水施設設置工事に係る
埋蔵文化財発掘調査報告

富山県 婦中町

南部Ⅰ遺跡発掘調査報告Ⅲ

2003年3月

婦中町教育委員会



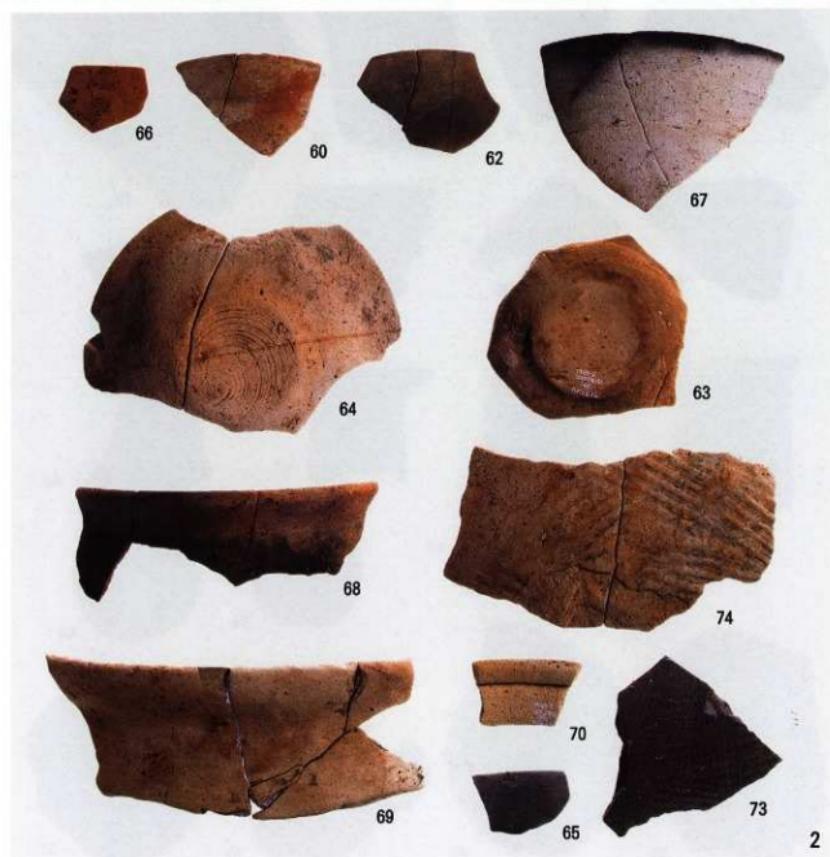
南部Ⅰ遺跡調査区全景（南から）



南部Ⅰ遺跡調査区全景（北西から）

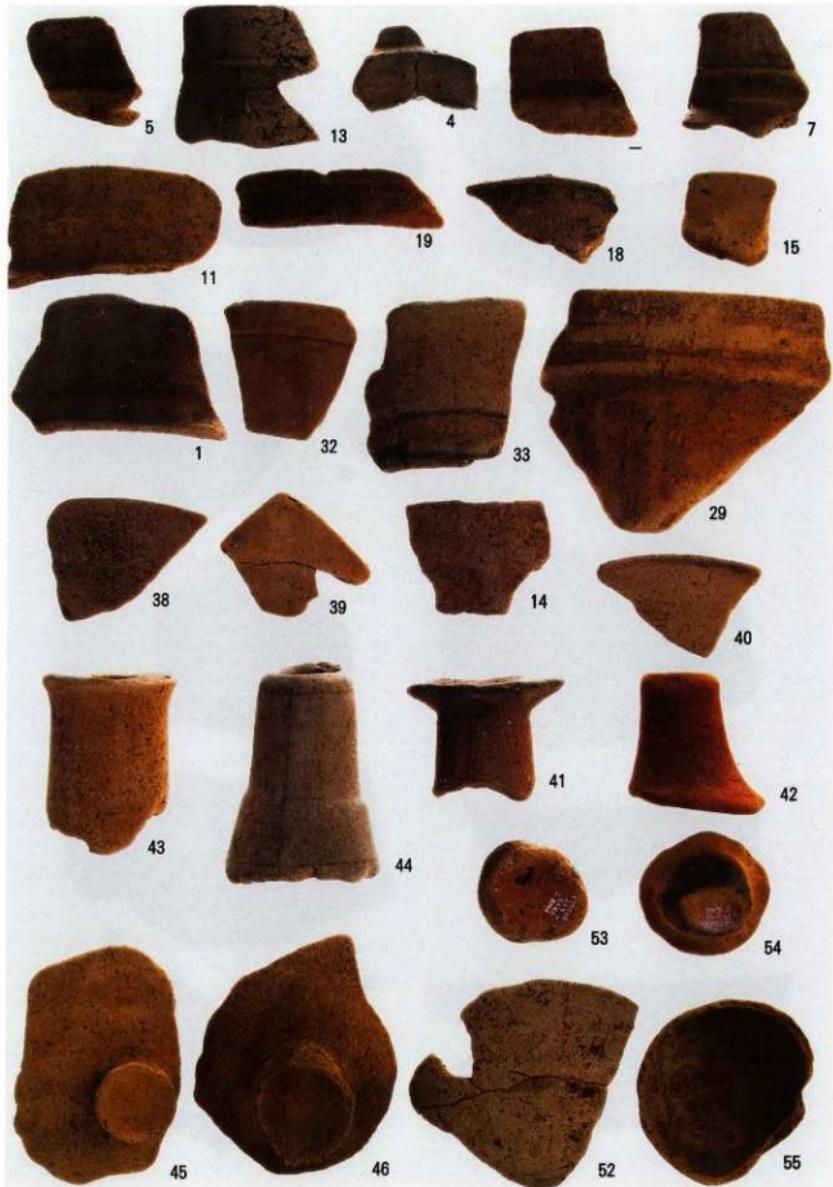


SX01遺物出土状況（西から）



SX01出土遺物（2は1/2）

※数字は実測番号



SD45出土遺物（1/2）

*数字は実測番号

序

南部Ⅰ遺跡は井田川左岸に広がる大規模な集落遺跡です。その起源は古く、約1800年前の弥生時代終末期に開始されて以来中近世に至るまで、婦中町の発展とともにその歴史を刻んできました。

本書は、この南部Ⅰ遺跡において婦中町教育委員会が実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

今回の調査は狭い面積ではありましたが、古墳時代、平安時代、室町時代の3時代に渡る集落の一部が確認されました。見つかった遺構や遺物は、先人達の暮らしづくりを示す具体的な資料となるものであり、高日附集落の生い立ちを考える上でも、また婦中町における集落のあり方を解明する上でも、貴重なデータを提供するものです。

弥生時代よりこの地には、井田川の恩恵を受けた広大な水田地帯が開拓され、いつの世もその生産力を基盤とした集落が栄えてきました。南部Ⅰ遺跡はそのことを示す証となるもので、町の長い歴史の軌跡を大地に刻む重要な遺跡といえます。

本書が多くの方々に活用され、郷土の素晴らしさを再発見していただくと共に、地域史の解明と文化財保護の一助となりましたら幸いです。

終わりに、調査に多大な御協力をいただきました地元の方々をはじめ、関係各位に深く感謝申し上げます。

平成15年3月

婦中町教育委員会

教育長 宮 島 信 一

例　　言

- 1 本書は、富山県婦負郡婦中町字高日附地内に所在する南部Ⅰ遺跡の発掘調査報告である。
- 2 調査は、一般県道小倉線消雪工取水施設設置工事に先立つものであり、富山県富山土木事務所の委託を受けて婦中町教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査の期間と面積は次の通りである。

調査期日 平成14年6月3日～平成14年7月12日
調査面積 222m²
- 4 調査体制は以下の通りである。

調査事務局 婦中町教育委員会 生涯学習課 課長 野田 洋
文化係長 矢郷 幸子

調査担当者 婦中町教育委員会 生涯学習課 主任 大野 英子
主事 細辻 駿門
嘱託職員 守田 瞳
嘱託職員 河竹 明子

現場及び報告書作成業務整理作業員 土田澄子、村上千春、生田寿美子
- 5 調査にあたっては、仮設事務所敷地・仮設水道は日笠工業㈱、大沢商会㈱、大沢は清氏に、排土置き場は阿部徹郎氏に便宜をはかって頂き、多大な御協力を得た。厚く御礼申し上げたい。
- 6 資料の整理、本書の編集は、調査担当者がこれに当たった。全ての文責は大野にある。
- 7 遺物の写真撮影に使用した撮影スタジオ及び器材については福岡町教育委員会の御協力を得、同教育委員会の栗山雅夫氏に多大な御指導・御協力をいただいた。記して謝意を表したい。
- 8 本書の神図、写真図版の表示方法は次の通りである。
 - (1) 方位は真北、水平基準は海拔高である。
 - (2) 遺構の表記は次の記号を用いた。

掘立柱建物：S B 横状遺構：S A 溝：S D 土坑：S K 柱穴：S P 不明遺構：S X
 - (3) 出土遺物については、挿図、写真図版、観察表の番号は一致する。
 - (4) 土層、土器の色調については『新版・標準土色帳』(農林水産技術会議事務局1976)を使用した。
- 9 出土遺物及び記録資料は婦中町教育委員会が保管している。

本文目次

卷頭図版	
序	
例言	
目次	
I 遺跡の立地と歴史的環境	1
II 調査の経緯と経過	3
第1節 南部I遺跡発見の経緯	3
第2節 今回の調査の経緯と経過	3
III 調査結果	4
第1節 調査の方法	4
第2節 地形と層序	4
第3節 遺構	5
第4節 遺物	10
IVまとめ	15
遺物観察表	17
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図 周辺の遺跡分布図 (1/30,000)	
第2図 調査対象地位置図 (1/5,000)	
第3図 調査区割図 (1/1,000)	
第4図 基本層序模式図	
第5図 遺構図 (1/80) 及び南壁断面図 (1/80)	
第6図 西壁・北壁・東西ベルト断面図 (1/80) 及び遺構平断面図 (1/40)	
第7図 挖立柱建物平面図及びエレベーション図 (1/80)、柱穴断面図 (1/40)	
第8図 S X01平断面図及び遺物出土状況図 (1/20)	
第9図 S D45器種構成比率	
第10図 S D45形態類別構成比率 (甕口縁部)	
第11図～第18図 遺物実測図 (1/3)	
表1 周辺の遺跡一覧	
表2・表3 遺物観察表	

I 遺跡の立地と歴史的環境

北陸の北東端に位置する富山県は、北は日本海に面し、東南部には立山連邦が、中央部には呂羽丘陵が連なる。標高987mの牛岳を水源とする山田川は、山谷を曲流して婦中平野に流れ出し、井田川に合流する。井田川は婦負平野の中央部を流れ、県の三大河川である神通川へと注ぎ、やがて富山湾へと流れ出す。

婦中町は、県のほぼ中央部に位置し、北端は県庁所在地の富山市と接する。地勢はおおまかには西の丘陵部と東の平野部に二分される。丘陵部は呂羽丘陵の南に連なり、平野部は町域東端で北流する神通川とその支流の井田川によって形成された扇状地となる。

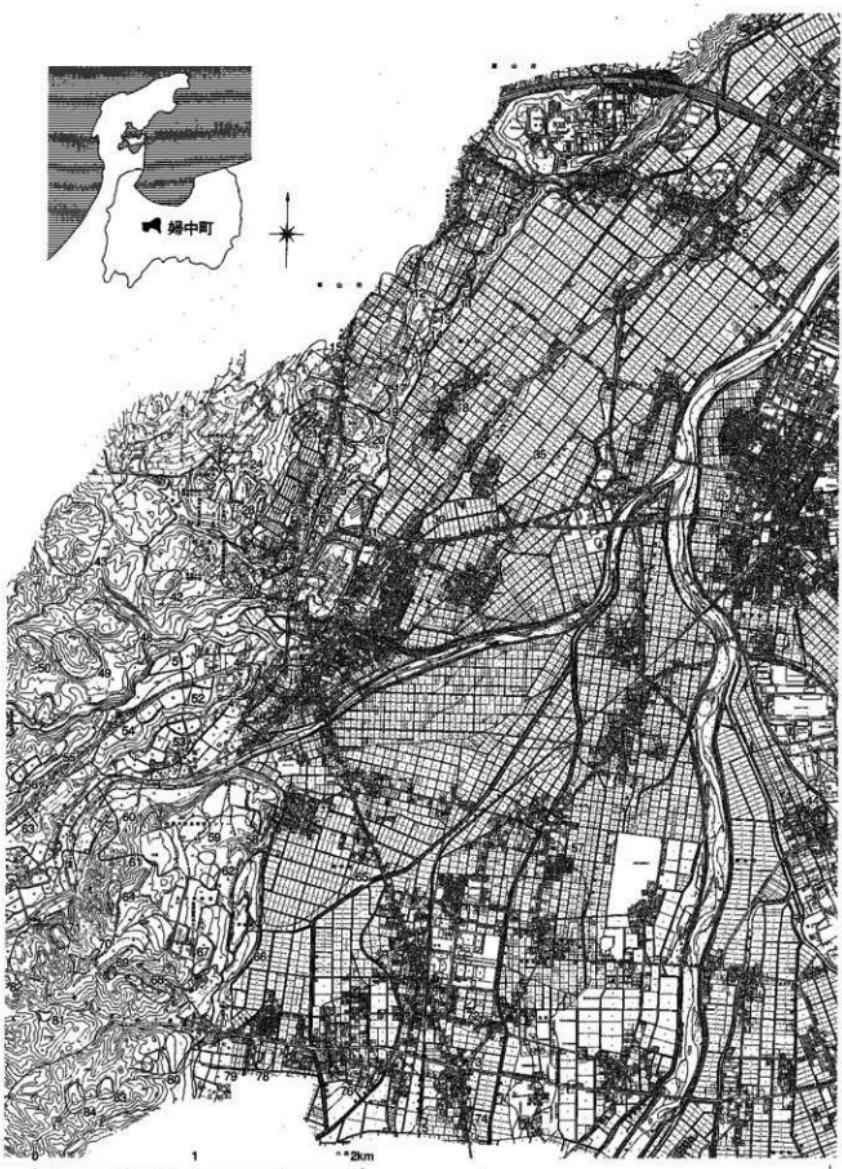
本書で報告する南部I遺跡は、井田川左岸の扇状地にある微高地に立地し、婦中町の熊野道、島田、高日附の3地区に広がる。弥生時代終末期から近世に至るまで断続的に営まれた大規模な複合遺跡であり、北と南に接する上吉川I遺跡と八尾尾翠原I遺跡は同一の遺跡として一つに繋がる可能性が高い。

関連遺跡として特筆すべきものには「千坊山遺跡群」がある。これは婦中町にある弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺跡の総称で、平野部には本遺跡を含む4つの集落があり、呂羽丘陵から富崎丘陵に連なる丘陵上には墳丘墓や古墳が分布する。墳丘墓には特徴的な四隅突出型墳丘墓や前方後方形墳丘墓が築かれ、古墳には本遺跡から1.8km西にある県内有数規模の富崎千里古墳群や、県内初の定型化された巨大古墳である国指定史跡の王塚古墳や県指定史跡の勅使塚古墳などがある。これらからは富山平野を統治した県内最大の勢力の存在が推測される。この遺跡群は、弥生時代から古墳時代にかけての社会の変遷が集落と墓地の両面から追うことができ、古墳出現期における北陸の様相と変遷を解明する上で極めて重要な役割を果たすものとして位置付けられる。

古墳時代以降も井田川左岸の良好な水田地帯であるこの一帯には、農耕を基盤とした集落が長く営まれた。古代には、本遺跡にあった大規模集落の他にも下邑東遺跡の大規模集落をはじめとした集落が出現し、全体に集落数が増加する。中世になると集落規模が縮小化し、島田・熊野道地区だけでも本遺跡の他に小倉中稻遺跡、小倉中稻II遺跡、南部II遺跡など全部で5つの集落に分散して、現在に繋がる集落を形成している。また、この一帯は、富山平野から砺波・飛騨へと抜ける交通の要所としても重要な地であり、射水・婦負二郡の守護代である神保氏の重要拠点となり、丘陵上に富崎城跡・長沢城跡などの多くの山城が築かれた地域でもある。

No.	遺跡名稱	種類	時代	No.	遺跡名稱	種類	時代	No.	遺跡名稱	種類	時代
1	西郷I遺跡	集落	新石器・古墳・近世	29	越・馬鹿	試掘	中世	57	上吉川I遺跡	集落	古文・古代・中世・近世
2	安田城跡	平城	中世・近世	30	下田遺跡	駆出場	新石器・古墳・古代・中世・近世	58	萬葉城跡(須坂)	集落	古文・古代・中世
3	大坂六道跡	集落	新石器・古代	31	朝ノ庄古墳	方形墳丘墓	古墳	59	富崎城跡(須坂)	駆出場	古文
4	中谷古墳群	古墳群	古墳・古代・古墳	32	三瀬大塚	前方後方墳	古墳	60	富崎井遺跡	集落・山城	古文・中世
5	水谷遺跡	集落・城	新石器・古代・中世・近世	33	砂子山I遺跡	集落	古墳・古代・中世	61	萬葉半田遺跡	集落	古文
6	飯田I遺跡	古墳地	不明	34	佐倉跡	駆出場	古代	62	吉田南古墳群	集落	古文・古代・中世
7	飯田II遺跡	古墳地	不明	35	下田遺跡	集落	古墳・古代・中世	63	北山D遺跡	駆出場	古文
8	飯田II遺跡	古墳地	古文	36	千賀山遺跡	前方後方・古墳	古墳・古代	64	南内山遺跡	駆出場	不明
9	婦中日遺跡	駆出場	古文・古代	37	各寺寺遺跡	集落	古文・古代・中世	65	吉田諸遺跡	集落・古墳地	古文・古代・中世・近世
10	喜留遺跡	集落地	紀元前・古代	38	内野坂	古方古方等古墳群	古方古・古代・中世	66	吉田千里古墳群	前方後方古墳・古方古	古文・古代・中世
11	飯田西遺跡	古墳地	古文	39	古吉田古墳群	古方古	古方古・古代	67	平出井山遺跡	駆出場	古文
12	大坂王遺跡	古墳地	不明	40	六石古墳	四輪山古墳群	古方古・古代・中世	68	吉田山遺跡	山城	古文
13	小糸の古墳	古墳跡	不明	41	前分山遺跡	小城	古文	69	吉田山遺跡	山城	中世
14	大坂北遺跡	古墳地	不明	42	笠置山遺跡	古方古	古方古	70	吉田山遺跡	山城	中世
15	大坂南遺跡	古墳地	古文	43	安谷遺跡	古方古	古方古	71	下田遺跡	山城	中世
16	小糸の古墳群	古墳	古文	44	通造I遺跡	無	中世・近世	72	吉田D遺跡	山城	中世
17	喜・大久遺跡	古墳地	古文	45	鶴山古遺跡	無	新石器・古墳・古文・近世	73	小森中綱三遺跡	無	中世
18	小糸CII遺跡	古墳地	古文・古代・中世・近世	46	御前寺遺跡	駆出場	中世	74	小森中綱遺跡	無	古文・中世・古文
19	一本木遺跡	古墳地	古文・中世?	47	御前寺遺跡	西側古墳群	古文・中世?	75	下田古遺跡	無	古文・中世・古文
20	二本木II遺跡	古墳地	古文	48	安田鬼城跡	山城	古文	76	下田D遺跡	駆出場・無	古文・中世・近世
21	一本木III遺跡	古墳地	古文・中世・近世	49	長沢跡	山城	中世	77	中田B遺跡	古墳地	古文・中世・近世
22	喜留I遺跡	古墳地	古文	50	御前寺遺跡	山城・その他	中世	78	平山D遺跡	山城・駆出場	古文
23	喜留II遺跡	古墳地	古文	51	御前寺遺跡	無	中世	79	吉田山遺跡	山城	古文
24	御前寺遺跡	古墳地	古文	52	喜留II遺跡	山城	古文	80	吉田山遺跡	山城	古文
25	御前寺II遺跡	古墳地	古文	53	喜留II遺跡	山城	古文	81	御前寺遺跡	山城	古文
26	喜留大坂遺跡	古墳地	古文	54	大坂II遺跡	無	古文・中世・近世	82	御前寺遺跡	駆出場	古文
27	柳町I遺跡	集落	古文・古代・中世・近世	55	外北A遺跡	駆出場	不明	83	御前寺遺跡	山城	中世
28	喜留II遺跡	駆出場	古文	56	外北B遺跡	駆出場	不明	84	吉田南遺跡	山城	中世

表1 周辺の遺跡一覧



第1図 周辺の遺跡分布図 (1/30,000)

II 調査の経緯と経過

第1節 南部Ⅰ遺跡発見の経緯

南部Ⅰ遺跡の発見は、平成6年度に神保地区において策定された県営圃場整備事業扱い手育成型（婦中南部地区）に起因する。この事業に先立ち、当教育委員会では平成6年度より3ヵ年による遺跡の分布調査を実施し、その後の平成9年度には事業対象区域外の高日附地区を踏査することで遺跡範囲を確認した。その結果、高日附・島田・熊野道の3地区にまたがる広いエリアに、弥生時代から近世に至るまでの遺物の散布が認められた。今回の調査対象地が所在する高日附地区の一部は、以前から弥生時代の遺跡である「高日附遺跡」として既に周知されていたが、調査で確認した遺跡範囲はこれを取り込むものであった。遺跡の名称は、発見の契機となった圃場整備事業の地区名より「南部Ⅰ遺跡」とした。その後、平成7年度から5ヵ年に渡り、遺物の分布が確認された範囲において試掘調査を実施し、事業対象外の高日附地区を除いた本遺跡の遺存状況と範囲が明らかとなった。平成11年度には、工事による削平が避けられない箇所について本調査を実施した。

なお、圃場整備事業以外の本調査としては、平成8年度に実施した個人住宅建築に先立つ調査がある。

第2節 今回の調査の経緯と経過

平成13年度、遺跡範囲において一般県道小倉線消雪工取水施設設置に伴う土木工事が計画された。その為、工事対象範囲における遺跡の遺存状況を確認する必要が生じた。そこで当教育委員会は、工事主体者である富山県富山土木事務所より依頼を受け、土地所有者の承諾を得た上で、同年12月13日に試掘調査を実施した。その結果、柱穴や土坑といった遺構を検出し、須恵器・土師器などの遺物の出土が認められた。この結果を踏まえて再度協議した結果、工事施工による遺跡の破壊は避けないと判断し、翌平成14年6月より、富山県富山土木事務所より委託を受けて本調査を実施する運びとなった。



第2図 調査対象地位置図 (1/5,000)

III 調査結果

第1節 調査の方法

調査では最初に、試掘調査の結果を基にして重機による表土除去作業を行った。

次にグリッド測量を行って基準杭を設けた(第3図)。座標軸は国土地理院設定の第7座標系公共座標のうち、X=69,986・Y=-2,044の点を原点として設定し、南北をX軸、東西をY軸とした。1グリッドの区画は2m×2mを単位とし、調査区の範囲はX=1~11・Y=2~9となる。

その後、人力による掘削作業に移り、まずは遺物包含層掘削、遺構精査を行った後、個々の遺構の裁ち割りと掘削を行った。

断面図の作成と写真撮影は順次行い、最後に調査区全体の平面図を作成した。

遺構が深く工事施工時まで放置するのは安全 第3図 調査区割図(1/1,000)

面に問題があった為、現地調査完了後、最低限に埋め戻し土を均した。

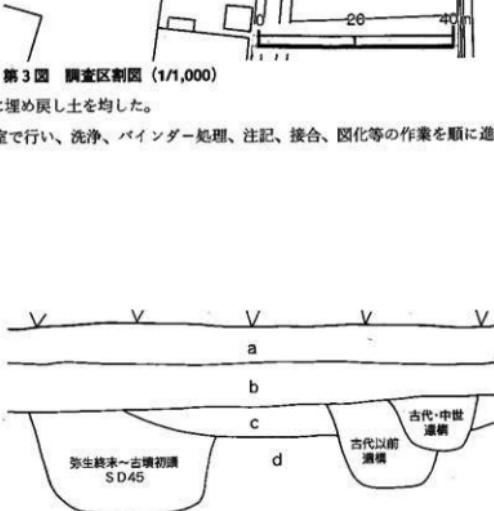
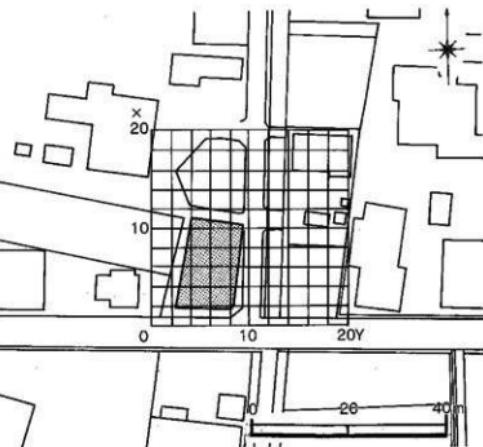
また、出土遺物の整理は現場事務所及び資料室で行い、洗浄、バインダー処理、注記、接合、図化等の作業を順に進めた。

第2節 地形と層序

南部I遺跡は、井田川左岸の扇状地に立地する。峠川と西高吉川に挟まれた標高22.1~32.5mの微高地にあり、南北に細長く伸びる遺跡である。面積は約30haを有する。現在は、微高地中央部を中心として集落があり、西側と東側には水田地帯が広がっている。

今回の発掘調査対象地は、遺跡範囲の北側中央部にあたり、標高は25.1mを測る。現況は畠地である。

調査区の基本層序は第4図のようになり、上からa・b層：表土(耕作土)、c層：弥生・古



第4図 基本層序模式図

墳時代の遺物包含層、d層：地山となる。古代・中世の遺構検出面は共にc層上面であり、明確な遺物包含層は確認されなかった。また、弥生・古墳時代の遺構検出面はd層上面であり、弥生・古墳時代の遺物包含層であるc層は一部に遺存するのみで層は薄く、遺物の含有も少ない。また、調査区全体に洪水の影響が窺え、地山のd層は砂が多く含まれ、砂礫層の上に砂質シルト層と砂層が縞状に堆積している。なお、砂礫層は東側に向けて隆起する。

第3節 遺構

第1項 弥生時代終末期～古墳時代初頭

弥生時代終末期から古墳時代初頭の遺構としては、大溝1条を検出した。

S D45（第5図・第6図） 調査区の東側にある溝で、北東方向に緩やかに曲がりながら北流する。規模は幅5m以上、深さ60cmを測る。東端の立ち上がりは調査区外となる為、未確認である。覆土（特に下層）からは、大量の土器が出土した。土層断面には洪水による土砂の多量流入や砂の自然堆積が認められ、それらから溝の埋没を防ぐ為、西側を中心にして数回に渡って振り直している状況が観察された。出土した土器の年代から、S D45の帰属年代は月影I式期から白江式期と考えられる。なお、調査区東側には現在用水が流れおり、地元の方によると以前はS D45東端に流れていたこともあるという。覆土上層には古代の土師器や須恵器、近世陶磁器などの時代が下る遺物も含まれており、周辺は常に疊んだ地形であったことが推測される。

第2項 古代

古代の遺構には、平安時代の掘立柱建物1棟、不明遺構1基、土坑、ピットを検出した。

S B46（第7図） 調査区の西側中央部に位置する掘立柱建物で、規模は北西－南東軸が2.3m以上、北東－南西軸が3.1mを測る。小さめの柱穴が不規則に並び、北東側は1間以上（1.3m）、南東側は2間（0.6m×1.7m）、南西側は1間以上（1.6m）である。3方向共に1間（0.5～0.8m）の庇が付き、庇部分は北東側が2間以上（0.9m×1.1m）、南東側が2間（1.3m×1.8m）、南西側は1間以上（0.7m）である。棟方位はN-55°-Wである。内部には加熱施設に関わる遺構と推測されるS X01がある。土器の年代から10世紀前半に属すると考えられる。

S X01（第8図） S B46の内部に取り込まれる遺構であり、円形と梢円形の2基の土坑で構成される。規模は円形土坑が長軸74cm以上、短軸60cm、深さ17cmで、梢円形土坑が長軸72cm以上、短軸37cm、深さ14.5cmを測る。覆土全体に炭化物や焼土が検出された。円形土坑からは土師器の甕が約7個体分出土しており、覆土③層の堆積状況から土器を一括廃棄した後、一気に埋め戻したものと推測される。一方、梢円形土坑からは土師器の甕が約4個体分出土しており、覆土①②層の堆積状況から東側でやや北側に曲がっていたものと推測される。梢円形土坑については焼土や炭化物が特に集中し、出土遺物の殆どは煮炊具である甕である為、炉や竈などの加熱施設に関わる遺構の可能性が高い。ただし壁が焼けていない点や出土した拳大の礎3点が被熱を受けていない点には注意を要する。2基の土坑の出土遺物に時期差は無く、全て10世紀前半に比定される為、梢円形土坑は円形土坑を埋めて間もなく振り込まれたものと考えられる。なお須恵器は、S X01全体で双耳瓶1点、壺1点、杯1点、杯蓋1点のみの出土で、いずれも小破片である。

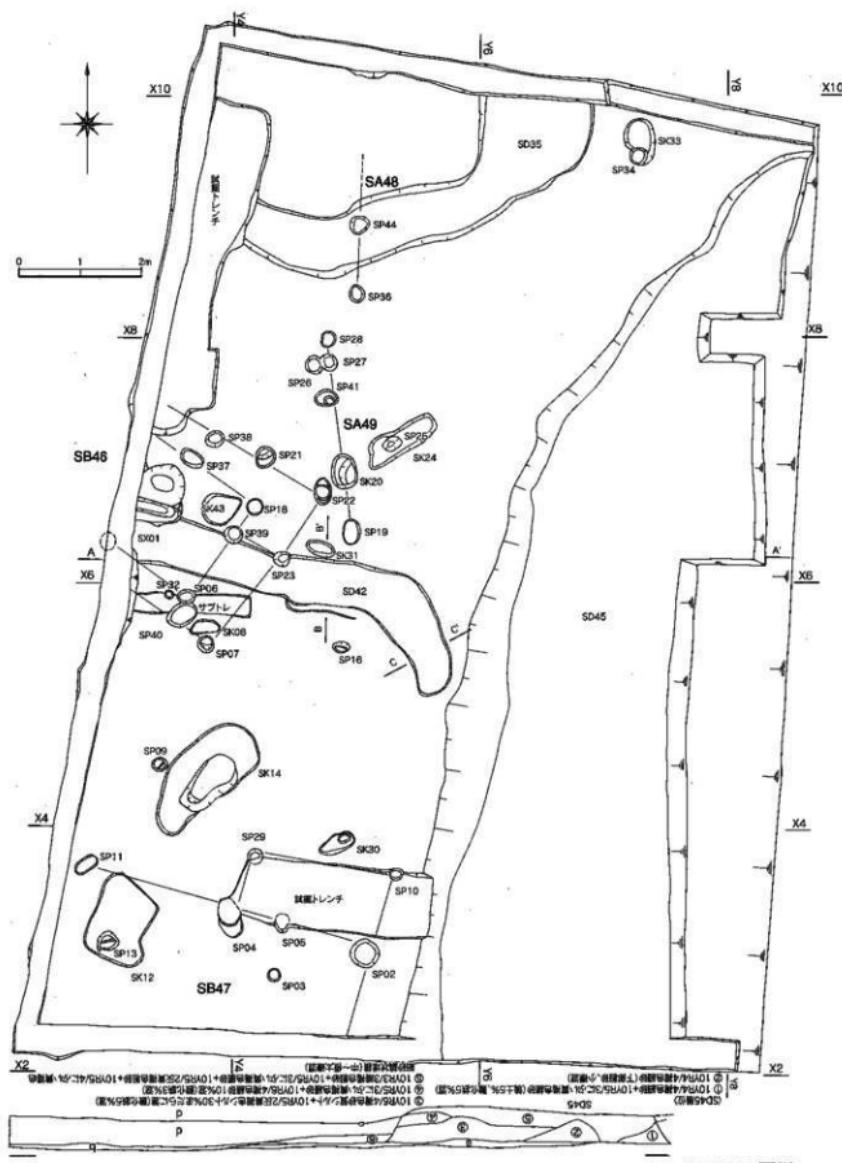
S K24・S P25（第6図） S B46の北東に位置する土坑とピットで、同一の遺構か。S K24は長軸13cm、短軸45cm、深さ20cmを測り、梢円形を呈する。土師器、須恵器の破片が出土した。S P25は直径24cm、深さ17cmを測る。

第3項 中世

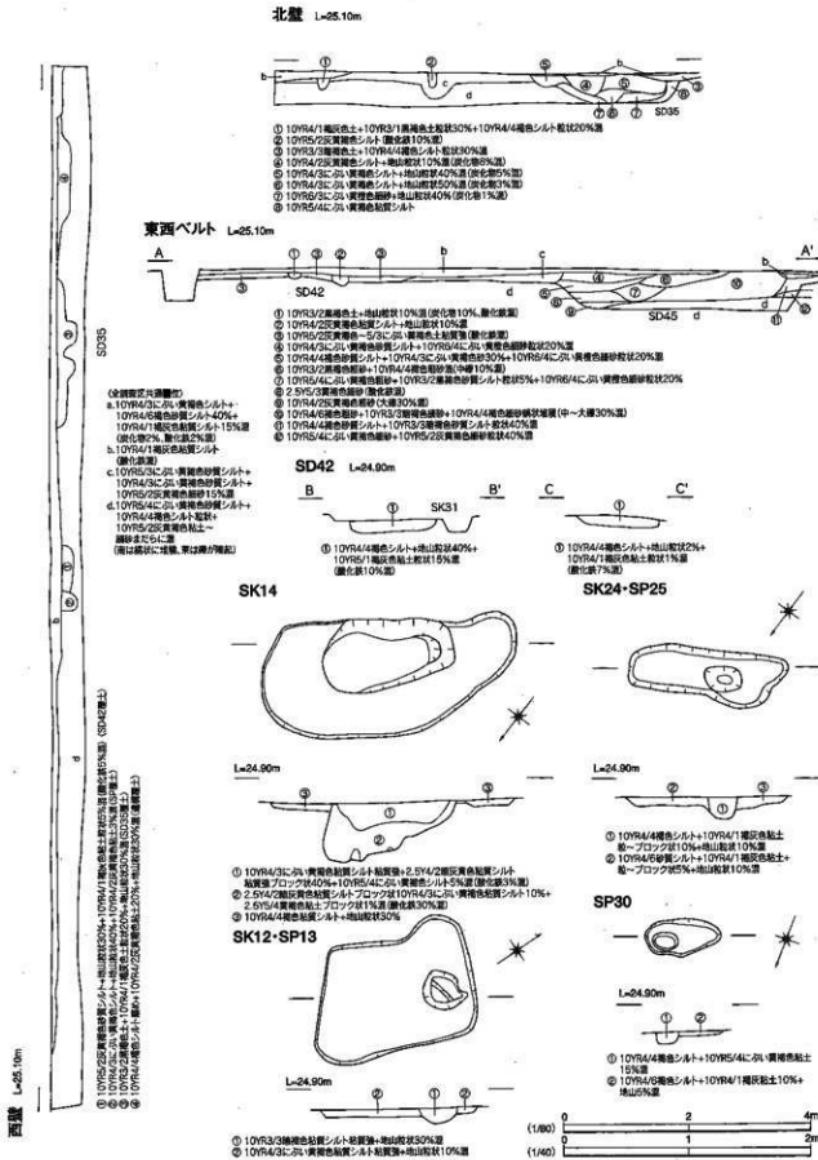
中世の遺構には、室町時代の掘立柱建物1棟、土坑1基、ピットを検出した。

S B47（第7図） 調査区の南西部に位置する掘立柱建物で、規模は東西軸が4.9m以上、南北軸が3.1m以上を測る。北側は3間以上（2.5m×0.9m×1.5m）、東側は1間以上である。北東には1間（1.0～1.3m）の庇が付き、庇部分の柱間は2.4mを測る。棟方位はN-74°-Wである。内部には土坑（S K12）がある。S P04とS P02からは中世土師器の甕が出土しており、この土器の年代から建物の時期は15世紀末から16世紀前半に位置付けたい。

S K12・S P13（第6図） S B47の内部にある土坑とピットで、S P13がS K12を切る。S K12は南東隅が突出する長方形を呈し、長軸130cm、短軸90cm、深さ8cmを測る。S P13は直径30cm、深さ12cmを測る。出土遺物は無く詳細は明らかではないが、作業場等の性格をもつS B47の付属施設と考えたい。



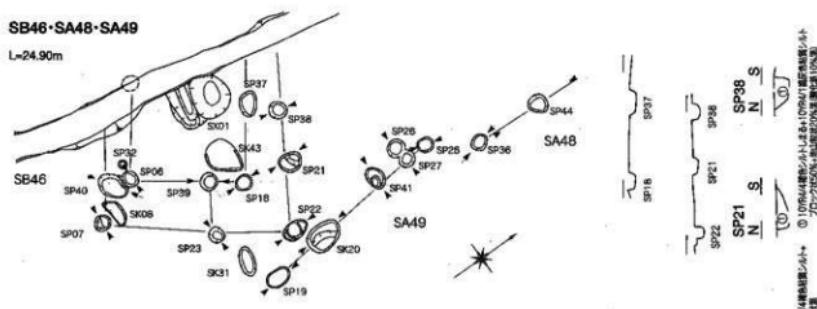
第5図 造構図(1/80) 及び南壁断面図(1/80)



第6図 西壁・北壁・東西ベルト断面図（1/80）及び遺構平面図（1/40）

SB46・SA48・SA49

L=24.90m



① 10YRA/4褐色シルト
② 10YRA/2灰青褐色粘土
③ 10YRA/4褐色粘土+シルト
④ 2.5Y4/3オリーブ褐色粘土
⑤ 2.5Y4/4褐色粘土

SP40

NE

SW

SP40 SP06 SP39 SP18

① 10YRA/4褐色シルト
シルト+10YRA/1
褐色粘土

① 10YRA/2灰青褐色
粘土+シルト+10YRA/1
褐色粘土

W

E

SP06

W

E

SP39

W

E

NE

SW

SP18

N

S

SP18

N

S

SP36

N

S

SP44

S

SD35

N

SD35

SP44

N

SP44

N

SP37

S

SP38

N

SP38

SP21

S

SP21

N

SP22

S

SP22

N

① 10YRA/4褐色シルト+
シルト+10YRA/1
褐色粘土

SP07

W

E

SP23

W

E

SP22

N

S

SP19

N

S

SK20

N

S

SP41

N

S

SP19

N

S

SP20

N

S

SP21

N

S

SP26

S

SP27

S

SP28

N

SP28

S

SP29

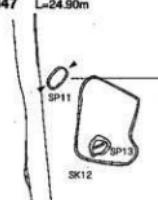
N

SP29

S

① 10YRA/4褐色シルト+
シルト+10YRA/1
褐色粘土

SB47 L=24.90m



SP11

W

E

SP04

N

S

SP05

E

W

SP02

N

S

SP04

W

E

SP05

E

W

SP02

N

S

SP10

N

S

SP29

N

S

SP10

N

S

SP29

N

S

SP10

N

S

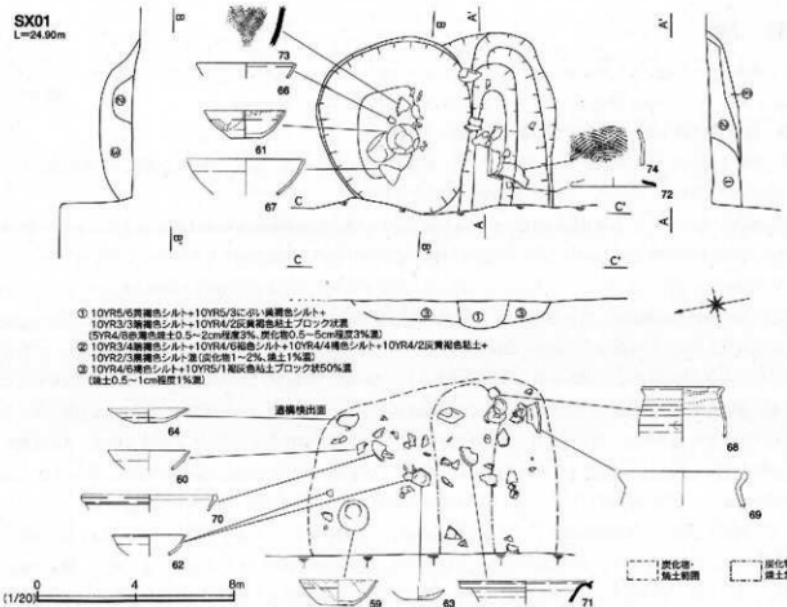
SP10

N

S

① 10YRA/3C灰
シルト+10YRA/1
褐色粘土+地山岩質30%

第7図 捩立柱跡面平面図及びエレベーション図(1/80)、柱穴断面図(1/40)



第8図 SX01平面図及び遺物出土状況図 (1/20) * 遺物実測図は1/3で、数字は実測番号

S K14 (第6図) 調査区の南西に位置する土坑である。長軸210cm、短軸95cm、深さ10cmの掘り込みの中央部に、長軸110cm、短軸60cm、深さ50cmの土坑を掘り込む。覆土は粘質で、中から木片が出土した。貯蔵穴などの性格が考えられるか。帰属年代ははっきりしないが、覆土がS B47の柱穴覆土と似ている為、同時期のものと考えたい。

第4項 その他

時期が不明確な造構に、溝2条、柵状造構2条、土坑、ピットがある。

S D35 (第5図・第6図) 調査区の北西に位置する溝で、規模は最大で幅2.5m、深さ50cmを測るが、西にいくにつれ浅くなり、掘り込みラインが不明確になる。方向は、西から北東に向かって走り、途中で北へ曲流する。S A48に切られ、古墳時代初頭の遺物包含層を切る。区画溝のような性格が考えられるか。

S D42 (第5図・第6図) 調査区の西側中央部に位置する溝で、規模は幅80cm、深さ20cmを測る。S B46とS A48に切られる。底部のレベルから東から北西に向かって流れていると推測され、S D45から取水する為の水路である可能性がある。

S A48 (第7図) S B46の北東に位置する延長3.3mの柵状造構。5基のピットは等間隔に設置されていない。主軸方向はN-7°-Wである。出土遺物は無く、主軸方向の違いからも建物に付属するかどうかは不明である。

S A49 (第7図) S B46の北東に位置する。S A48とほぼ平行しており、同じく柵状造構と考えたい。出土遺物は無く、主軸方向の違いからも建物に付属するかどうかは不明である。

第4節 遺物

以下、遺構ごとに記述する。個々のデータについては巻末の觀察表にまとめているので、それを参照されたい。なお、弥生土器に関しては、器種の後に付くべき「形土器」は省略して記述した。

第1項 弥生時代終末期～古墳時代初頭（第11図・第12図）

S D45 月影I式から白江式に属する土器が出土した。器種には壺、壺、高杯、器台、蓋、鉢、小型土器がある。その他、上層より須恵器の壺、壺、杯、土師器の壺が極少量出土している。

1~26は壺で、そのうち1~13は有段口縁壺。1~3は口縁部に4~7条の擬凹線を施す有文口縁壺(A a)で、4~13は無文口縁壺(A b)。有段口縁壺には、A b1：長く外反する頸部に外反する短い口縁部が付くもの(4)、A a(b)2：外反する頸部にやや短めの口縁部が付くもの(2、5、6)、A b3：短く外反する頸部に外傾する口縁部が伸展したもの(7、8、9)、A a(b)4：短く外反する頸部で、段の屈曲が弱く、外反する口縁部が伸展したもの(1、3、10、11、12)、A b5：短く外反する頸部で、外面下端が肥厚する程度の口縁部が付くもの(13)がある。14~23は「く」の字状口縁壺。B1：口縁端部を丸く仕上げるもの(14~17、23)とB2：面取りするもの(18~22)がある。24~26は底部で、底径は2cm前後と小さい。壺の調整方法は、口縁部は内外面共に横ナデ、胴部は外面がハケで内面はハケ後籠削り、底部は外面が籠削りで内面がナデを施すものが多い。27~37は壺。27・28は底部で、27は胴部が偏球形を呈するものと考えられ、外面を磨いた後に赤彩を施す。29~32は広口壺で、長く外傾もしくは外反する頸部に外傾する有段口縁が付くもの(29~31)、外反する頸部に外傾する有段口縁が付くもの(35)、長く外傾する頸部を持ち、口縁端部を上方に短く拡張するもの(32)がある。33・34は有段壺で、段の屈曲は弱く、短い頸部に伸展した口縁部が付く。大きさは様々である。36・37は短頸壺で、胴部は(偏)球形を呈する。壺の調整方法は、口縁部内外面と頸部外面はナデもしくはハケ後ミガキ、頸部内面はハケもしくはハケ後ナデを施す。38~44は高杯もしくは器台。38・39は杯部もしくは受部で、外反して伸びる口縁部を持つ。40~44は脚部。40は棒状有段脚と考えられるもので、端部を上方に拡張し擬凹線を施す。41・42は裾部途中で緩やかに屈曲して外へ開く。44は有段脚である。調整方法は、内外面共にハケ後ミガキもしくはナデを施す。45~49は壺。45~47は体部が内湾するもので、45・46は摘み頂部がやや座む。48・49は体部が直線的に伸びる。調整方法は、内外面共にミガキもしくはナデを施す。50~54は鉢。50は発達した口縁部を持つ有段口縁鉢。51・52は碗形を呈し、外反する口縁部をもつ。53・54は台付鉢または台付壺の脚部。鉢の調整方法は、内外面共にハケ後ミガキもしくはナデを施す。55・56は小型土器で、55は平底の鉢などの器形が考えられ、56は壺の底部である。

57は須恵器の壺。58は土師器の中型壺の底部である。平底で、調整方法は内面はハケ後粗くミガキを施し、外面はハケ後籠削りする。8世紀代に比定される。

第2項 古代（第13図）

S X01 土師器の碗、皿、壺、須恵器の双耳瓶、壺、杯、杯蓋が出土した。全て10世紀前半に比定されるものである。

59~64、66~70、74は土師器。59~63、66、67は碗。法量には、口径が13cm、16cm、19cmの3種類がみられ、器高は全体にやや低めである。体部は緩やかに内湾し、口縁端部がやや外反するものもある。底部は回転糸切りによる切り離しだけである。59、61にはタールが付着する。67は内面黒色土器であり、摩滅が激しいが内面には籠磨きによる調整が認められる。64は皿で、体部が外方に伸びる。底部は回転糸切りである。68~70、74は壺。68は小型壺で、口縁部は短く外反して端部を面取りする。調整方法は口縁部から胴部にかけて回転横ナデする。69・70は壺で、口縁端部を内側に巻き込んで丸く肥厚させる。調整方法は内外面を横ナデする。74は壺の胴部破片で、叩き出しにより成形され、内面の當て具痕をナデ消している。69と同一個体か。65、71~73は須恵器。65は杯。71は双耳瓶で、口縁部を屈曲させ摘み上げる。72は杯蓋で、口縁端部を丸く収める。73は壺の胴部破片。

S K33 75は土師器の壺。口縁部は頸部との境で屈曲して外傾し、端部を丸く収める。調整方法は、外面はハケ後ナデ、内面は口縁部がハケ後ナデ、頸部より下はハケが施される。8世紀代に比定される。

S P07 76は土師器の碗。体部は緩やかに内湾し、口縁端部がやや外反する。10世紀前半に比定される。

第3項 中世（第13図）

S P02 77は中世土師器の皿。手すくね成形であり、口縁部は外傾し端部が尖る。胎土は水簸したものを使用する。15世紀末から16世紀前半に比定される。

第4項 遺構出土物（第13図）

78～80は土師器。78、79は椀。78の体部は緩やかに内湾し、口縁端部はやや外反する。79の底部は回転糸切りによる切り離しである。80は小型壺。外傾する口縁部は先端で内側に屈曲し、端部を丸く収める。78、79は10世紀前半、80は9世紀代に比定される。81～87は須恵器。81～84は杯蓋。81、82は口縁端部内面にかえりが付き、81は頂部に丸みをもつ。83は口縁端部が短く屈曲し、84は丸く肥厚する。85は短頸壺の蓋。体部が直立して頂部境で強く屈曲し、頂部を平らにするもので、口縁内側端部を面取りする。86は杯身で、体部から底部にかけて内湾する。87は壺の底部。81、82は7世紀後半、83は8世紀代、84は9世紀後半、85は7世紀後半、86は9世紀後半に比定される。88～90は越中漸戸。88、89は丸皿で、88には内外面に灰釉がかかる。89は削り出し高台の底部。90は擂り鉢で、口縁端部の縁帯を外方に少し摘み出す。内外面に錫釉がかかる。17世紀前半に比定される。

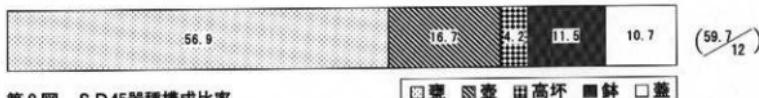
第5項 S D45出土土器について（第9図・第10図）

ここでは遺物出土量が特に多かったS D45の土器の特徴を列記する。同一遺構の部分的な資料であることから土器様式別の詳細な分析は行わず全体を概観するに留めたが、当然、土器類相には時期差があることを先に断っておく。

・器種構成比率では、煮炊具の壺が56.9%と過半数を占める。次いで壺が16.7%と多く、月影式な様相を示している。一方、高杯・器台は4.2%と極めて少ない。赤彩品が壺1点のみであることからも、S D45の土器組成は日常容器の壺・壺が主体であり、高杯・器台・装飾壺などの祭式土器は極めて少ないといえる。

・壺の口縁部形態では、全体の57.1%が有段口縁壺である。そのうち49.1%が無文口縁で、有文口縁は8.1%に過ぎない。土器は月影I式、月影II式、白江式に属するものであるが、有段口縁壺では月影II式以降に多く見られるA b(a)4・A b5類の割合が高く、月影I式的なA b1類は少ない。また、全体の42.8%は「く」の字口縁壺が占めており、有文有段口縁壺が少なく「く」の字口縁壺が多いという嬉負郡に共通する地域性があらわれている。

・在地色が極めて強く、白江式段階に至っても他系統のものは殆ど見られない。



第9図 S D45器種構成比率

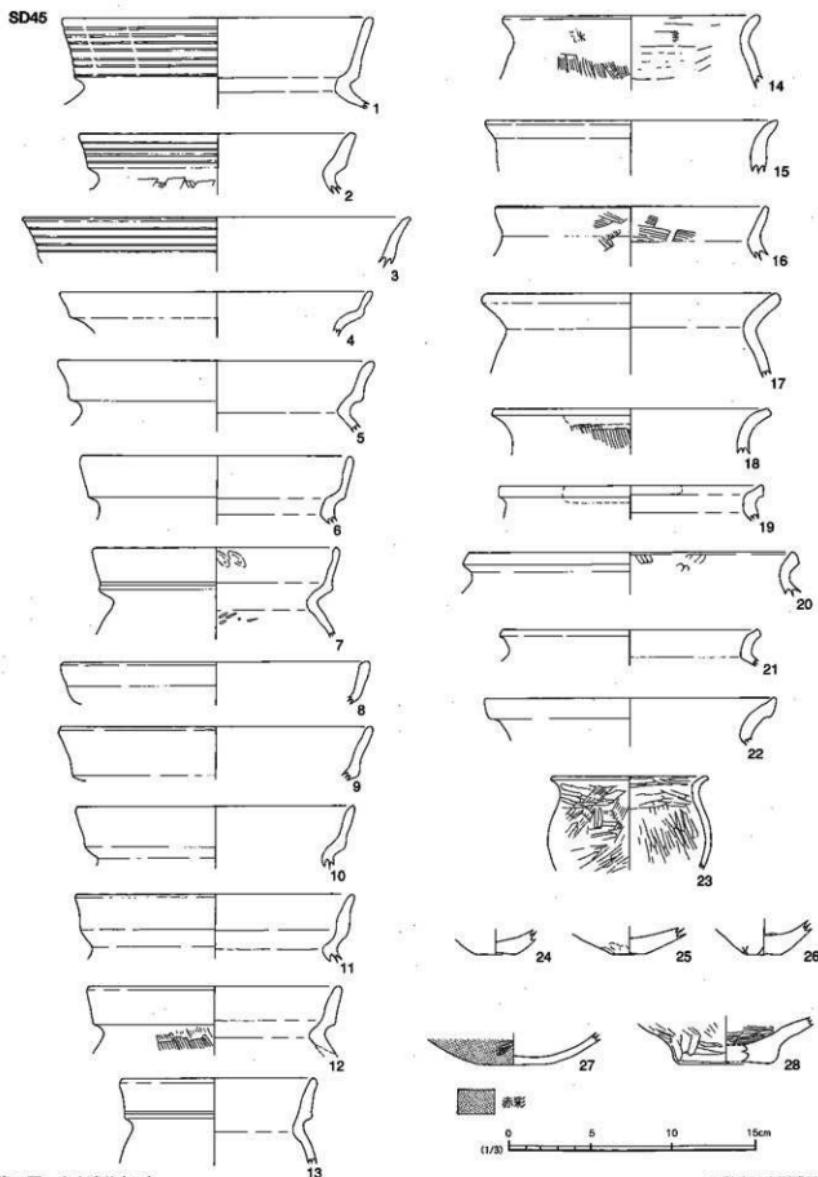
■壺 □壺 ▲高杯 ■鉢 □蓋



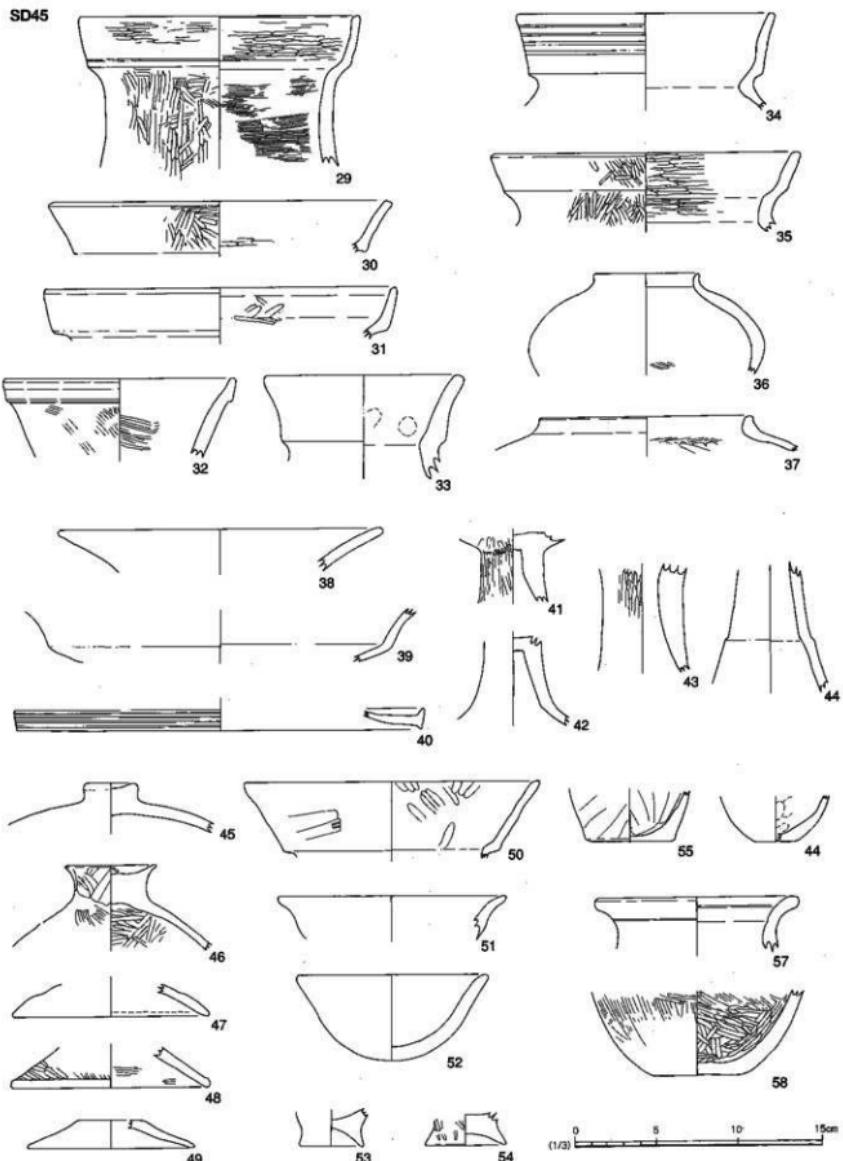
第10図 S D45形態類別構成比率（壺口縁部）

■ Aa2 □ Aa4 ▲ Ab1 ▨ Ab2 ▨ Ab3
□ Ab4 ▲ Ab5 □ B1 ▨ B2

*出土量の算出は口縁部計測法による(宇野1988, 1992)。()内は口縁残存率を12分割した同心円で読み取った数値の総計。

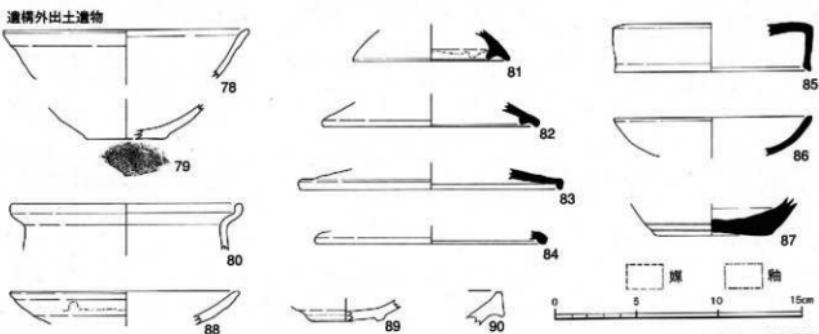
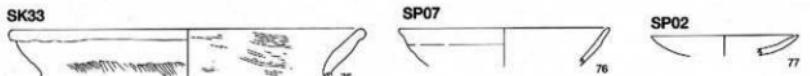
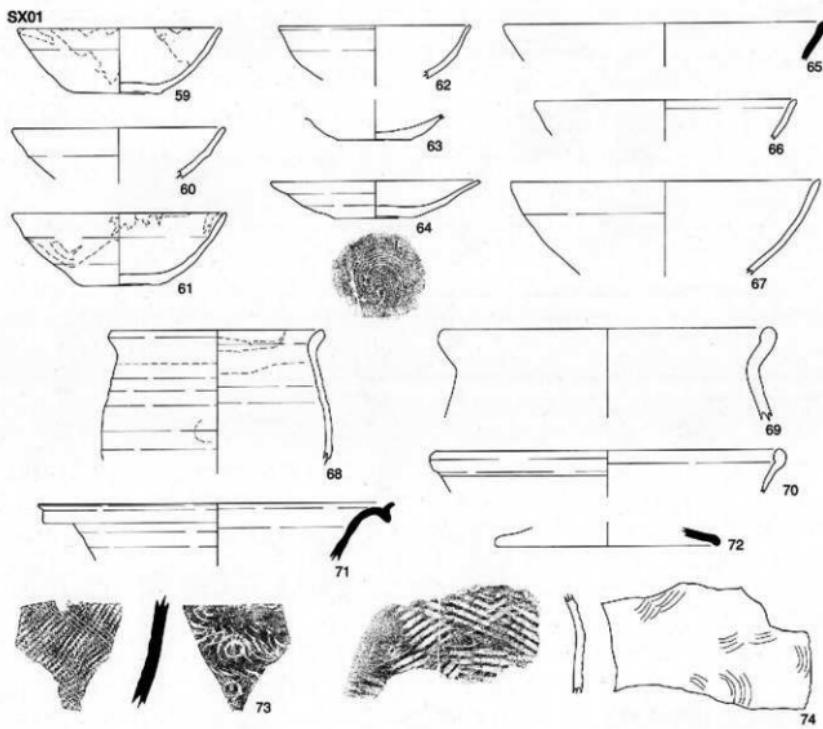


第11図 出土遺物 (1/3)



第12図 出土遺物 (1/3)

*数字は実測番号



第13図 出土遺物 (1/3)

*数字は実測番号

IV まとめ

今回の調査で検出された遺構の造営年代は、弥生時代終末期～古墳時代初頭、古代（平安時代）、中世（室町時代）の3時期に分かれる。以下、時代別にまとめる。

(1) 弥生時代終末期～古墳時代初頭

調査区東側にS D45が築かれる。帰属年代は、出土土器の年代から月影I・II式期、白江式期と考えられ、特に月影II式期、白江式期が主体となることが推測される。

これまでの発掘調査では、調査区南側に弥生時代終末期から古墳時代前期（月影I式期～高島式期）の遺構・遺物を確認しており、今回の調査でこの集落の延長が高日附地区まで広がっていることが確かめられた。

本遺跡で確認した同様の遺構としては、平成8年度の島田地区における調査で検出した白江式期から古府クルビ式期の大溝S D02の例がある。S D02では祭式土器を含む土器の一括廃棄が数箇所に認められ、溝における農耕祭祀の可能性が推測されている〔1998堀内〕。また、周辺の試掘調査での遺構・遺物の分布状況から、S D02は居住域の東端に位置していたと考えられ、集落境の区画や排水の役割を果たしたものであったと推測される。一方、S D45では土器は多量に出土したが、出土状況や前章第4節第5項で述べた器種構成からは意識的な廃棄の状況は窺えず、祭祀的行為によるものというよりは、長期間に渡って日常的に廃棄されたかもしれないは洪水によって流されてきた可能性が高い。また、性格については、S D02と同様に取水・排水や区画を目的としたものと考えられるが、狭い範囲での調査であることから流路の一部しか確認出来ておらず、集落との位置関係も不明である為はっきりしない。居住域の位置については、以前から周知されていた「高日附遺跡」の存在から、少なくとも調査区北西には広がっているものと推測されるが、詳しい範囲については周辺地区でのデータの蓄積を待って判断したい。

なお、本遺跡の存続期間内には、富山平野を統治した首長墓とされる県内最古で最大級の前方後方墳、王塚古墳、勅使塚古墳が築造されており、本遺跡に拠点集落が存在した可能性も考えられる。しかし今回の調査では、その根拠となるような遺構は確認されなかった。

(2) 古代

調査区西側中央部に掘立柱建物S B46が建てられる。帰属年代は、出土土器の年代から10世紀前半頃と考えられる。S B46は本遺跡における古代の建物構造の1パターンを示すものであり、その付属施設で加熱に関わる性格が推測される。S X01では、楕円形の土坑内に炭化物や焼土が集中し、土師器の甕が出土している。しかし同じくS X01を構成し、楕円形土坑に切られる円形土坑については、やはり炭化物や焼土は混ざるもの、遺物として出土するのは土師器の甕であり、性格や楕円形土坑との関係は不明確である。類例の報告を待ちたい。

これまでの試掘調査では、今回の調査区の南側に8世紀中葉から10世紀初頭の遺構・遺物の集中エリアを確認しており、周辺地区の分布調査でも土器の集中散布が認められている。このことから、本遺跡の古代における集落の中心地は調査区周辺にあったものと考えられ、今回確認した建物跡はその集落の一部といえる。

遺構に伴わない遺物としては、8世紀代から10世紀前半の須恵器・土師器の他に、7世紀後半の須恵器が出土した。これまでの調査で、古代の南部I遺跡は6世紀末から7世紀中葉に遺跡南部で成立したことが分かっているが、これらの遺物の存在から7世紀後半には遺跡北部にも居住域が存在していたことが推測される。

(3) 中世

調査区南西部に掘立柱建物S B47が建てられる。帰属年代は、出土土器の年代から15世紀末から16世紀前半頃と考えられる。これまでの試掘調査では、中世には遺跡内の2箇所に集落が成立していることが分かっており、S B47はこのうち北部の集落に含まれるものと考えられる。調査区からは、美濃や越前などの中世陶器や、越中瀬戸、伊万里、唐津な

どの近世陶磁器が出土しており、付近には近世以降も集落が存続し、現在の集落へと繋がっていったものと推測される。

参考文献

- ア 石川考古学研究会シンポジウム実行委員会1986『シンポジウム「月影式土器」について 報告編』
内田亜紀子1997『越中における古代土師器の編年考察』『埋蔵文化財調査概報一平成8年度一』富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
内田亜紀子2000『越中婦負郡の古代土師器煮炊具一婦中町中名I・V・VI遺跡の竪穴住居出土資料を中心に一』『富山考古学研究』第3号 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
宇野隆夫1992『食器量査の意義と方法』『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
カ 金沢市、金沢市教育委員会1996『西念・南新保遺跡IV』金沢市文化財紀要119
北野博司・池野正男1989『北陸における須恵器生産』『北陸の古代手工業生産』北陸古代手工業生産史研究会
久々忠義1999『古墳出現期の土器について』『富山平野の出現期古墳』富山考古学会
サ 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1999『富山県指定史跡動使塚古墳発掘調査レポート』
酒井重洋1997『中世上師器の分類について—清水島II遺跡・中名II遺跡・持田I遺跡から—』『埋蔵文化財調査概報一平成8年度一』富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
タ 田嶋明人1986『考察—漆町遺跡出土土器の編年的考察一』『漆町遺跡I』石川県立埋蔵文化財センター
富山大学人文学部考古学研究室1990『越中王塚・動使塚古墳 测量調査報告—北陸の前方後円・後方墳の一考察』
富山県教育委員会1986『富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群 第8次緊急発掘調査概要一小杉丸山遺跡一』
ハ 婦中町1967『婦中町史』
婦中町1997『婦中町史』
婦中町教育委員会1986『富山県婦中町富崎・千里地区埋蔵文化財予備調査概要』
婦中町教育委員会1998『富山県婦中町南部I遺跡発掘調査報告』
婦中町教育委員会2000『富山県婦中町南部I遺跡発掘調査報告II』
婦中町教育委員会2000『富山県婦中町県営狙い手育成基盤整備事業に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書一婦中南部地区・千里地区』
婦中町教育委員会2002『富山県婦中町千坊山遺跡群試掘調査報告書』
ミ 宮田進一1988『越中瀬戸の窯資料(1)』『大境』第12号 富山考古学会
北陸中世土器研究会1997『中世の北陸—考古学が語る社会史』桂書房
ヤ 谷内尾晋司1983『北加賀における古墳出現期の土器について』『北陸の考古学 石川考古学研究会誌第26号』石川考古学研究会
八尾町教育委員会1997『翠尾I遺跡発掘調査報告書1』
雄山閣1996『日本土器事典』
吉岡康暢1989『珠洲の名陶』珠洲市立珠洲焼資料館

序号	出土地點	種類	地層	標高	深度	土壤		剖面		分段		地質		編號	圖示
						(cm)	(m)	(cm)	(m)	(cm)	(m)	(cm)	(m)		
1	SD45-30357	柱狀	II-1	18.50	0.70	7.00	1.10	2.00	3.00	5.00	7.00	10.00	12.00	14	7
2	SD45-30357	柱狀	II-1	18.50	17.20	7.00	1.10	2.00	3.00	5.00	7.00	10.00	12.00	14	4
3	SD45-26-7567	柱狀	II-1	18.50	18.30	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	5
4	SD45-26-7567	柱狀	II-1	18.50	19.30	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
5	SD45-X077	柱狀	II-1	18.50	18.60	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
6	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	18.80	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
7	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	18.90	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
8	SD45-30379	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
9	SD45-30379	柱狀	II-1	18.50	19.50	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
10	SD45-26-7567	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
11	SD45-20379	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
12	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
13	SD45-20379	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
14	SD45-30379	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
15	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
16	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
17	SD45-20379	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
18	SD45-X077	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
19	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
20	SD45-20379	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
21	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
22	SD45-30379	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
23	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
24	SD45-20379	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
25	SD45-26-7567	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
26	SD45-30379	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
27	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
28	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
29	SD45-20379	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
30	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
31	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
32	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
33	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
34	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
35	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
36	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
37	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
38	SD45-20379	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
39	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
40	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
41	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
42	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
43	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
44	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—
45	SD45-X079	柱狀	II-1	18.50	19.00	6.00	0.80	1.00	2.00	3.00	5.00	7.00	9.00	16	—

表2 遺物觀察表

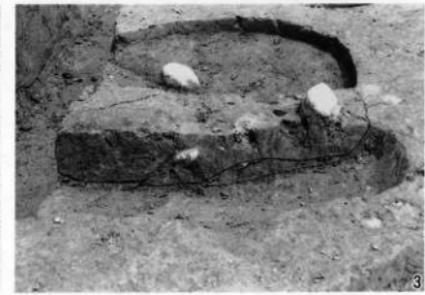
表3 遺物整理表

番号	出土場所	形	量	地質	地質	地質	外 国	内 國	地 質	外 地 質		新 墓	新 墓	新 墓	新 墓
										（m）	（m）				
										（m）	（m）				
47	SD45-X719	箱形	1.95	無層理	中層理	中層理/高層理	無	無	無	1.75	1.75	土	土	土	土
48	SD45-X719	箱形	1.95	無層理	中層理	中層理/高層理	無	無	無	1.75	1.75	土	土	土	土
49	SD46-X7174	箱形	1.95	無層理	中層理	中層理/高層理	無	無	無	1.75	1.75	土	土	土	土
50	SD46-X7175	箱形	1.95	無層理	中層理	中層理/高層理	無	無	無	1.75	1.75	土	土	土	土
51	SD46-X718	箱形	1.95	無層理	中層理	中層理/高層理	無	無	無	1.75	1.75	土	土	土	土
52	SD46-X718	箱形	1.95	無層理	中層理	中層理/高層理	無	無	無	1.75	1.75	土	土	土	土
53	SD46-X717	箱形	1.95	無層理	中層理	中層理/高層理	無	無	無	1.75	1.75	土	土	土	土
54	SD46-X7174	箱形	1.95	無層理	中層理	中層理/高層理	無	無	無	1.75	1.75	土	土	土	土
55	SD46-X7175	箱形	1.95	無層理	中層理	中層理/高層理	無	無	無	1.75	1.75	土	土	土	土
56	SD46-X718	箱形	1.95	無層理	中層理	中層理/高層理	無	無	無	1.75	1.75	土	土	土	土
57	SD46-X719	箱形	1.95	無層理	中層理	中層理/高層理	無	無	無	1.75	1.75	土	土	土	土
58	SD46-X719	箱形	1.95	無層理	中層理	中層理/高層理	無	無	無	1.75	1.75	土	土	土	土
59	SD51-No.35	柱状	12.90	4.10	無	無	無	無	無	10.80	10.80	土	土	土	土
60	SD51-No.35	柱状	13.00	4.10	無	無	無	無	無	10.80	10.80	土	土	土	土
61	SD51-No.44	柱状	13.00	4.80	無	無	無	無	無	11.00	11.00	土	土	土	土
62	SD51-No.44	柱状	13.00	4.80	無	無	無	無	無	11.00	11.00	土	土	土	土
63	SD51-No.44	柱状	13.00	4.80	無	無	無	無	無	11.00	11.00	土	土	土	土
64	SD51-No.54	柱状	13.00	4.80	無	無	無	無	無	11.00	11.00	土	土	土	土
65	SD51-No.71	柱状	13.00	4.80	無	無	無	無	無	11.00	11.00	土	土	土	土
66	SD51-No.44	柱状	13.00	4.80	無	無	無	無	無	11.00	11.00	土	土	土	土
67	SD51-No.44	柱状	13.00	4.80	無	無	無	無	無	11.00	11.00	土	土	土	土
68	SD51-No.48	柱状	13.00	4.80	無	無	無	無	無	11.00	11.00	土	土	土	土
69	SD51-No.48	柱状	13.00	4.80	無	無	無	無	無	11.00	11.00	土	土	土	土
70	SD51-No.47	柱状	13.00	4.80	無	無	無	無	無	11.00	11.00	土	土	土	土
71	SD51-No.44	柱状	13.00	4.80	無	無	無	無	無	11.00	11.00	土	土	土	土
72	SD51-No.48	柱状	13.00	4.80	無	無	無	無	無	11.00	11.00	土	土	土	土
73	SD51-No.72	柱状	13.00	4.80	無	無	無	無	無	11.00	11.00	土	土	土	土
74	SD51-No.46	柱状	13.00	4.80	無	無	無	無	無	11.00	11.00	土	土	土	土
75	SD52	柱状	23.40	—	無	無	無	無	無	19.00	19.00	土	土	土	土
76	SD52	柱状	23.40	—	無	無	無	無	無	19.00	19.00	土	土	土	土
77	SD52-No.47	柱状	23.40	—	無	無	無	無	無	19.00	19.00	土	土	土	土
78	XK74-X704	箱形	15.00	9.00	0.10	無	無	無	無	13.50	13.50	土	土	土	土
79	XK74-X704	箱形	15.00	9.00	0.10	無	無	無	無	13.50	13.50	土	土	土	土
80	博士	箱形	14.60	—	無	無	無	無	無	13.00	13.00	土	土	土	土
81	博士	箱形	14.60	—	無	無	無	無	無	13.00	13.00	土	土	土	土
82	博士	箱形	14.60	—	無	無	無	無	無	13.00	13.00	土	土	土	土
83	XK74-X704	箱形	14.60	—	無	無	無	無	無	13.00	13.00	土	土	土	土
84	XK74-X704	箱形	14.60	—	無	無	無	無	無	13.00	13.00	土	土	土	土
85	XK74-X704	箱形	14.60	—	無	無	無	無	無	13.00	13.00	土	土	土	土
86	XK74-X704	箱形	14.60	—	無	無	無	無	無	13.00	13.00	土	土	土	土
87	XK74-X704	箱形	14.60	—	無	無	無	無	無	13.00	13.00	土	土	土	土
88	XK74-X704	箱形	14.60	—	無	無	無	無	無	13.00	13.00	土	土	土	土
89	XK74-X704	箱形	14.60	—	無	無	無	無	無	13.00	13.00	土	土	土	土
90	XK74-X704	箱形	14.60	—	無	無	無	無	無	13.00	13.00	土	土	土	土

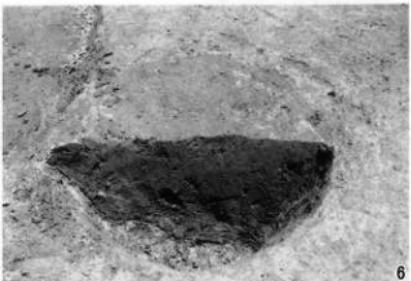


図版1 航空写真（上が北）

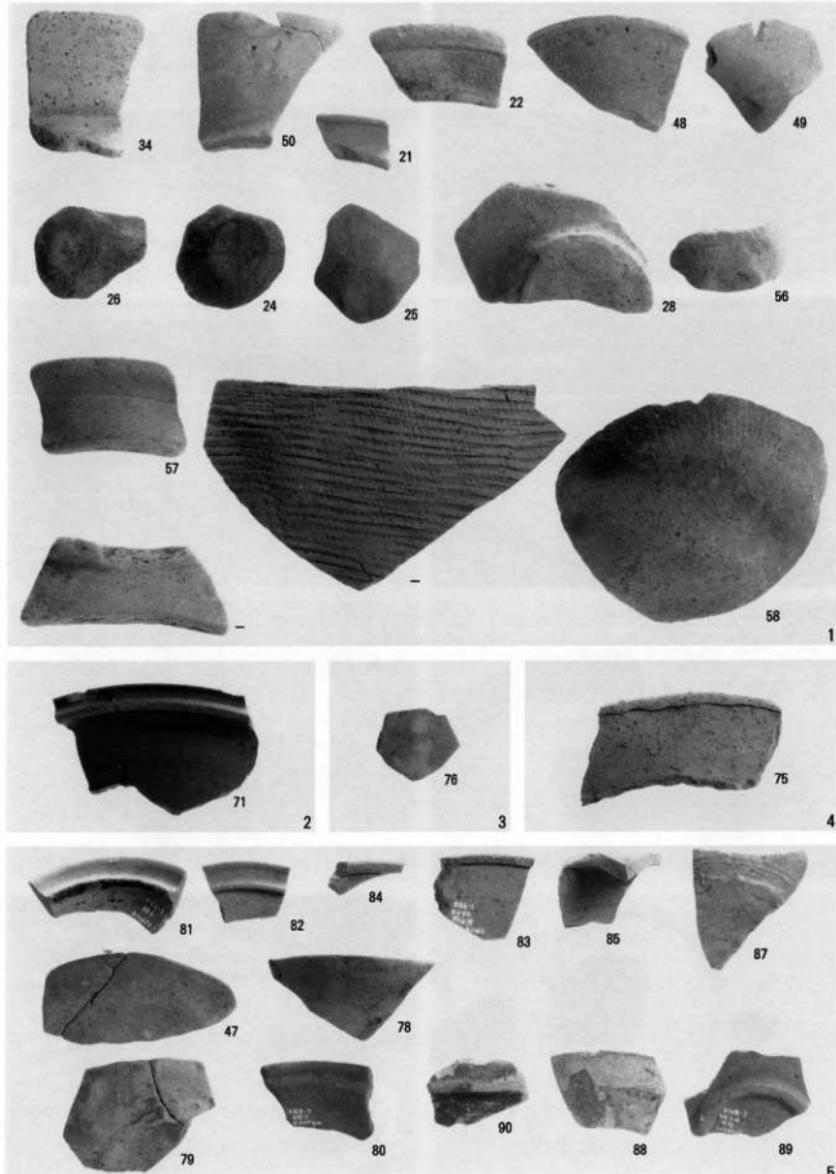
昭和22年 米軍撮影



図版2 1. S B46, S A48・49(北西から) 2. S X01(西から) 3. S X01断面(南から) 4. S D35(北東から)
5. S P22断面(西から) 6. S P18断面(西から)



図版3 1. 東西ベルト S D45断面（北から） 2. 南壁 S D45断面（北から） 3. S B47周辺（南から） 4. S K12・13（西から）
5. S K04断面（西から） 6. S K02断面（西から） 7. S K14・15（南から） 8. 作業状況



図版4 1. S D45出土遺物 2. S X01出土遺物 3. S P07出土遺物 4. S K33出土遺物 5. 遺構外出土遺物 奈数字は実測番号

報告書抄録

ふりがな 書名	なんぶ いのち いせき けんこう くわくとうしき ほうこくさん 南部 I 遺跡発掘調査報告Ⅲ							
シリーズ名	一般県道小倉線消雪工取水施設設置工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告							
編集者名	大野 英子							
編集発行機関	婦中町教育委員会							
所在地	〒939-2727 富山県婦中町砂子田1-1 TEL 076-465-3113							
発行年月日	2003年2月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
なんぶ いのち いせき 南部 I 遺跡	富山県婦中町 高日附 454番地	市町村	遺跡番号	36度 37分 45秒	137度 08分 35秒	020603～ 020712	222m ²	一般県道小倉線消雪工取水施設設置工事に係る事前調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
南部 I 遺跡	集落	弥生時代終末期～ 古墳時代初頭	大溝	弥生土器、古式土師器				
		古代	掘立柱建物 1棟、土坑	古代土師器、須恵器				
		中世	掘立柱建物 1棟、土坑	中世土師器				

**富山県婦中町
南部Ⅰ遺跡発掘調査報告Ⅲ**

平成15年3月

編集 婦中町教育委員会

発行 婦中町教育委員会

富山県總負郡婦中町砂子田1-1

印刷 佛なかたに印刷